

幸せになるための教育を実現する会議を設置するにあたり

半田市長 久世孝宏

市長としての最大の使命は何だろうか。市長を目指すことを考えるようになった時に、一番大事にした主題です。

市長としての最大の使命は市民を幸せにすること。これが、たどり着いた結論であり、私にとっての市政運営の根幹です。半田市の発展、将来のビジョン、これらは目指すべきものですが、全て市民の幸せのためにあるべきであり、どこまでいっても手段、もしくは目標に過ぎません。

このように考える中で、もう1点、考えるようになりました。幸せになりたくない人はいるのだろうか。私もこれまでの人生で当たり前のように求めてきた幸せでしたが、地球上の他の生物とは違う進化を遂げた人間は、幸せになるために生きなくては意味がないのではないかと。こう考え、市長として市民を幸せにすることを自分の使命として、幸せになれる半田市、幸せあふれる半田市を創り上げていく覚悟を決めた次第です。

ところで、幸せとは何でしょうか？私は、幸せは他人から押し付けるものではなく、人それぞれの幸せがあると考えています。そして、単純なものでもないとも感じています。例えば、雨降りの日に傘を差しだされました。自分が傘を持っている時と傘を持っていない時、霧雨の時と土砂降りの雨の時とでは、感謝の気持ちに違いがあるのではないのでしょうか。同じ傘を差し出された行為が、置かれた環境によって感じ方が変わります。環境が異なる人それぞれに、異なる感じ方、そして幸せがあり、環境が変われば幸せは変化するのではないのでしょうか。だからこそ、幸せになるためには、生涯に亘り幸せについて真剣に考え続け、その実現に向けて行動し続けることが必要であり、そのような市民であってほしいと思います。

しかし実際はどうでしょうか。ユニセフの子どもでの幸福度調査（「レポートカード 16」2020 年）では、日本の精神的幸福度は、調査対象 38 か国中下から 2 番目です。その大きな原因が、幸せについて真剣に考えずに、安易に他者との比較で優劣をつけて、一喜一憂している事だと私は考えています。こんなことではとても幸せになれないと、大いに憂います。

さて、「市民を幸せにする」、とはいうものの、幸せには様々な形があり、自ら幸せを考え、行動することで幸せになれるとするなら、幸せになれるかどうかは、市民次第です。市民のみなさまが、幸せについて自ら考えてほしいと思います。半田市は、みなさまの幸せについて、みなさまが実現出来るように後押しをする立場であります。

そして、幸せあふれる半田を目指すために、まずは義務教育現場で取り組むことを考えています。幸せにつ

いて自ら考えることができる子どもを育てることがその目標です。

義務教育現場は、その世代の全ての市民が集う場であり、子どもが変われば、大人への影響が期待できます。また、行政の施策が行いやすい世代でもあり、そして何よりこれから半田市の未来を作る世代であります。

そこで、市長としては

半田市独自に、幸せ教育の実現を、教育現場にお願いをしたいと考えました。

このことは、今までの教育活動に新たな内容を加えることとなりますが、実現のためにも思い切った新たな活動を展開したいと思います。

当然ながら、新たな活動を行うための教育現場の環境整備には責任を持つ覚悟です。

ここで、実現に向けての、私が考えた方法の基本を申し上げれば

- ① 自立した精神で、考える力を持つ子を育てる
- ② 自分にとっての幸せとは何かを考える機会、深く考えるための様々な知識、経験を得られるようにする
- ③ 先生も子供たちと一緒にあって、幸せについて考え、幸せになる
- ④ 願わくは、自己中心的な行動で得られる裕福さを、幸せと考えつかないように導きたい

であります。

これをたたき台にして、まずは幸せについて、委員の皆さんと一緒に考え、より良い『幸せ教育』の在り方を追及していきたいと思います。ご協力をお願いします